



2026 年 4 月 30 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 N A N K A I
代 表 者 名 代表取締役社長 岡嶋 信行
(コード番号 9044 東証プライム市場)
問 合 せ 先 総務広報部長 新階 寛仁
(TEL. 06-4950-7280)

「NANKAI グループ中期経営計画 2025-2027」の数値目標の修正について

当社は、2025 年 3 月 31 日に公表した「NANKAI グループ中期経営計画 2025-2027」の数値目標の修正について、本日開催の取締役会において決議いたしましたのでお知らせいたします。

詳細は、別紙のとおりです。

目標指標	2027 年度目標 (当初計画)	2027 年度目標 (修正後)
営業利益	360 億円以上	420 億円以上
純有利子負債残高/ EBITDA(※)倍率	7 倍台	7 倍台(修正なし)
ROE	7%程度	7%以上

※ EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費

以 上



「NANKAIグループ中期経営計画 2025－2027」の 数値目標の修正について

2026年4月30日

株式会社NANKAI (東証プライム市場 9044 <https://www.nankai.co.jp/>)

中期経営計画の数値目標修正について

営業利益・ROEの数値目標を上方修正し、将来の企業価値の大きな向上に向けた取り組みをさらに加速

目標指標		2027年度目標（当初計画）	2027年度目標（修正後）	将来的に目指す水準
利益創出	営業利益	360億円以上	上方修正 → 420億円以上	460億円以上 (2035年度までの早期に)
財務規律	純有利子負債残高/ EBITDA※倍率	7倍台	7倍台	6倍台
資本効率	ROE	7%程度	上方修正 → 7%以上	8%以上

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

次期中計の策定と合わせて
アップデートを予定

数値目標修正の理由

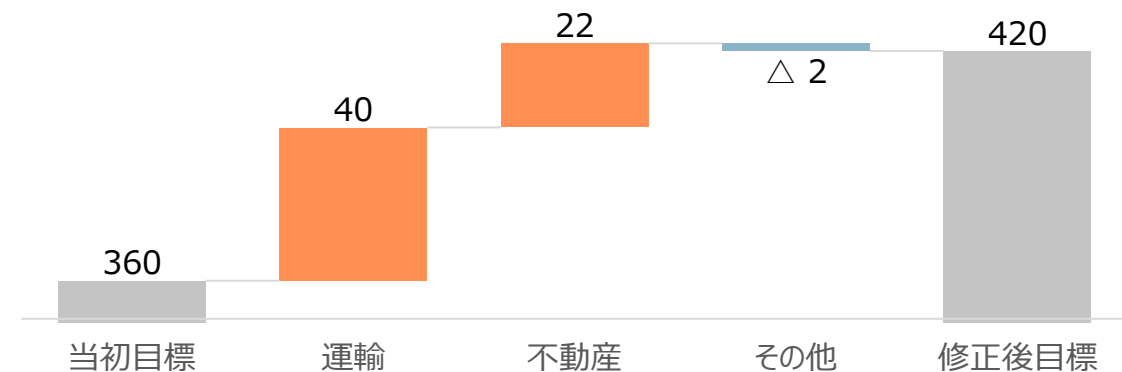
- ① 中期経営計画1年目・2年目ともに、中計公表時の最終年度の営業利益目標（360億円）を上回る想定**
 - 2025年度：大阪・関西万博の効果やインバウンド需要の取り込みなどにより、営業利益は期初の想定から大幅に上振れ（326億円→399億円）
 - 2026年度：大阪・関西万博効果の反動減や日中関係の悪化など減益要因はあるものの、特急料金の見直しや収益不動産取得、物流施設の高度化による利益積み増しなどにより、営業利益400億円の達成を目指す
- ② 着実に戦略を実行し、コア事業を中心にさらなる利益成長を目指す（中計最終年度（2027年度）営業利益420億円）**
 - 中国を除くインバウンド需要は引き続き拡大傾向であり、運輸業を中心に収益への取り込みを図る
 - 新規収益不動産の利益寄与、鉄道事業の分社化を契機とした事業運営の高度化・最適化など、各戦略打ち手の成果を最大化
- ③ 財務体質の改善が結実し、より一層「資本コストや株価を意識した経営」を実践していく**
 - 2025年度においては、120億円の自己株式取得・消却を実施したことに加え、信用格付が向上（R&I：A-（ポジティブ）→A（安定的）に格上げ）
 - 今後、コア事業への集中投資を最優先とする方針は継続しながら、資産・資本効率をより重視した財務運営に取り組んでいく

主な財務指標

インバウンド需要の取り込み、各事業での計画を上回る利益積み上げなどにより、**コア事業を中心に営業利益が伸長**
中計に掲げる戦略や財務規律への考え方に大きな変更はないが、資本効率向上への取り組みは一層強化を図る

	2024年度 実績	2025年度 実績	2026年度 予想 (2026年4月公表)	2027年度 計画
営業収益	2,607 億円	2,647 億円	2,875 億円	3,063 億円
営業利益	346 億円	399 億円	400 億円	420 億円
投資額 ^{※1}	470 億円	991 億円	1,362 億円	1,247 億円
EBITDA ^{※2}	632 億円	686 億円	700 億円	755 億円
純有利子負債残高/ EBITDA ^{※2} 倍率	6.2 倍	6.1 倍	7.4 倍	7 倍台
ROE	7.5 %	7.8 %	7.0 %	7 % 以上
配当性向	20.1 %	22.0 %	25.0 %	30 % 程度

最終年度（2027年度）の営業利益見直しの内訳
（当初目標360億円→修正後目標420億円）（単位：億円）



<主な増減理由>

運輸業 +40億円
インバウンド需要の取り込み・特急料金の見直しに伴う鉄道収入の増加
償却方法の見直し^{※3}などに伴う減価償却費の減少

不動産業 +22億円
回転型ビジネスの拡大、マンション販売の増加
北大阪トラックターミナル7号棟の利益寄与額の増加

※1 連結消去前数値、M&Aや出資等を含む
※2 営業利益+減価償却費+のれん償却費
※3 2026年度より実施

NANKAIグループ中期経営計画2025-2027（修正後サマリー）

【戦略は変更なし】

将来の企業価値の大きな向上に必須となる、**コア事業を中心とした総額3,600億円の投資を短期集中で実行**
鉄道事業の分社化を経て**新たなNANKAIグループに生まれ変わりを図る3年間**

戦略面

基本方針

社会的使命を今後も果たし続けるため、
利益を維持しながら、**企業価値の大きな向上に向けた、
コア事業の強化（集中投資）を最優先**

※コア事業：不動産事業、公共交通事業

ポイント

- ▶ 当社グループの社会的使命である沿線価値向上に貢献し続けるには、企業価値の大きな向上が必須
- ▶ 鉄道事業の分社化を経て、不動産事業と公共交通事業を両輪に成長を加速
- ▶ 未来へ向けた取り組みは大きな変革を図り、成長を具現化
- ▶ 事業の源泉である人に対する投資を加速（NANKAIグループ人財戦略）

重点戦略

- ▶ 飛躍的な不動産事業の拡大
M&Aなどのインオーガニックな手法を選択肢に加え、飛躍的な成長を実現
大家業から総合不動産事業への脱却を図る
- ▶ 未来を拓く公共交通事業への変革
現状の延長線上では、事業の将来的な存続が困難であるという危機感のもと、
未来のために必要な投資を集中的に実行し、事業の存続と成長に挑戦

基盤戦略

- ▶ 新事業のスケールアップ実現と未来探索の継続
- ▶ 「選ばれ続ける沿線づくり」の具現化
- ▶ コーポレート戦略※と事業戦略との連動強化

※人財戦略・DX戦略・財務戦略

財務面

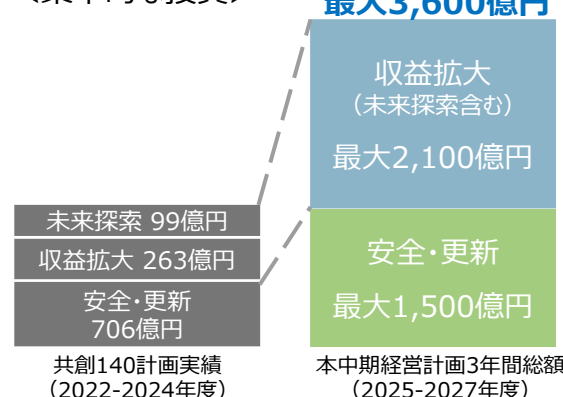
＜数値目標＞

目標指標		2024年度実績	2027年度目標	将来的に目指す水準
利益創出	営業利益	346億円	420億円以上	460億円以上 (2035年度までの早期に)
財務規律	純有利子負債残高/EBITDA※倍率	6.2倍	7倍台	6倍台
資本効率	ROE	7.5%	7%以上	8%以上

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費

次期中計の策定と合わせて
アップデートを予定

＜集中的な投資＞



＜資本コストや株価を意識した経営＞

資本効率性指標を数値目標に導入し、
資本構成の最適化やROEとPERそれぞれの向上に
向けた打ち手を遂行することにより、
PBRの向上・中長期的な企業価値の向上を実現

＜株主還元方針＞

安定配当を基本方針としつつ、
**連結配当性向を段階的に向上させ、
2027年度には30%程度とすること**を目標とし、
状況に応じて**機動的に自己株式取得**を行う



本資料に関する注意事項

本資料は投資勧誘を目的とした資料ではありません。あくまでも参考資料であり、正確な決算数値等は決算短信・有価証券報告書等をご参照ください。

本資料で記述しております業績予想および将来予想は、現時点で入手可能な情報に基づいて算定しておりますが、需要動向などの業況の変化、物価変動等、多分に不確実要素を含んでおります。

そのため、実際の業績は、さまざまな要因の変化により業績予想と乖離する場合がありますので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。